

赤羽

若者と宗教

「もう一つの道」を開く



若者と宗教は つながるのか？

若者と宗教がつながる機会とはそれほど多くないように感じます。私は、主に福祉職を希望する学生と接する機会が多いのですが、経済的にも世相としても暗い話題が多い状況の中で、孤立感を感じていない、社会とつながっている実感がなく、人とかわりたくないという悩みを多く聞きます。

自身の経験から

ここで、私の経験を少しお話しさせて下さい。私が二十歳の頃、あの地下鉄サリン事件などオウム真理教がらみの事件がありました。当時、オウム真理教にたくさんの若者が惹きつけられていた現象がマスコミの話題をさらい、私た

ちの世代は「オウム世代」とさえ呼ばれていたのです。若者と宗教がつながっていたのかもしれない。そんな状況の中で、なぜ宗教にしかも既存の宗教でなく新宗教に向うのかを自分自身の問題として考えるために、若者たちが集まっていたさまざまな新宗教の教団

(いわゆる「洗脳」を手段としている教団を除いて)を訪問し、半月程度共に生活をさせていただきました。から勉強することにしました。ここで学んだことはとても多いのですが、最も印象に残っているのは、若者と宗教をつなぐ二つの道があるということです。

一つは、現在流行している前世、霊などスピリチュアルの要素から、自分は何者であるかを見つけたぞうというものです。当時、こうした関心の高まりが若者を宗教へ導き、時にはオウム事件のように暴走してしまっているのではないかと、若者の生きる力が精神世界やオカルト的なものに委ねられてしまっているのではないかとという危険性が指摘されていたのです。

しかし、こうした懸念は今では殆んど語られることがなくなりました。実際、一九七三年から二〇〇八年まで五年ごとに実施されているNJK放送文化研究所の意識調査によれば、若者の占いや霊に對する関心の高まりとは反比例するかのようになり、宗教への関心が低下していることが明らかにされて

います。では、このことは若者と宗教をつなぐ道が閉ざされていると考えるべきなのでしょうか。私はむしろ、若者と宗教をつなぐ別の道を探るいい機会ではないかと考えています。

この二つの道とは何か。様々な宗教団体で一緒になった同世代の若者たちと語り合う中で気づいたことは、そこが他では経験することができない、社会とつながることができる通路だということ感覚でした。

生きていく中で話し手がいない、孤立している、漠然とした恐怖感や不安を感じている若者たちは、どうして、こうして新宗教の教団は様々つながりの機会を与えていました。人と人とのつながりだけでなく、環境運動、平和運動といった、教団の内部に限定されない大きな社会とのつながりをつけてくれる場合もありました。

つまり、こうした教団を通して社会とつながっているという実感を得ることができるとのことです。何を隠そう私が自身がつなぐた。前世やオラや精神世界を考るよりも、こちらの方がはるかに面白いのではないかと。そして、今振り返って思ふことですが、今振る「オウム世代」と言われた若者たちの関心も、実はこちらの道にあったのではないかと。

宗教団体に限りますが、何かこうして若者をつなぐ場があれば、あのよ

赤羽別院報 第19号
発行日：2009年(平成21年)6月1日
発行所：真宗大谷派 赤羽別院 報宣寺
発行人：浅野 伸
愛知県稲沢市一色町赤羽上郷中14
Tel・Fax (0563) 72-2308

■筆者プロフィール
松宮 朝 (一九七四年生まれ)
愛知県立大学 教育福祉学部 准教授
京都大学法文学部卒
北海道大学文学部助手を経て現職
主な著書等
「現代のエスプリ」特集ボトムアップ
人間科学の可能性 論文発表
「トヨテイズムを生かせる共善」(せりか書房)

うな悲劇とはならなかったのではないかと夢想することもあります。ちなみに、森達也監督の「A」、A2という映画で描かれているオウム真理教の若い信者たちの姿には、この可能性が示唆されています。

「もう一つの道」を開く
そして、若者と宗教をつなぐこの二つの道の先には、様々な「もう一つの道」が開かれています。私自身も、新たなつながりを求めて、新宗教教団を旅することをやめました。

しかし、その後も全国をまわり、若者と地域のつながり方を考えるためのフィールドワークを続けました。不思議と浄土真宗のお寺と縁がある気がします。現在私の研究の中心である福祉やまちづくりでの地域のつながりの可能性を気づかせていただき、様々なつながりを持つ自分の姿を教えられたのは、鳥根県のあるお寺でした。

愛知に住むようになってからは、西尾市のお寺で様々なつながりを体験することができました。お寺という場が、人と人をつなげる重要な働きをもっていることに気づかされたのです。こうした宗教が用意している道を「縁」というのかもしれない。

逆にいえば、このような道を用意してくれないならば、若者と宗教のつながりは断ち切られたままかもしれません。そこからひろがる「もう一つの道」にこそ、宗教の持つ可能性があるのではないのでしょうか。

門徒の声

一般民衆の「お寺はなれ」が言われて久しい今日ですが、何とかのあたりで人心がお寺へ回帰する方策を考えなければなりません。さて、そこで考えられることは、お寺が広く社会に開放され、お寺へ子供たちが来て、一緒に大人も来てくれれば幸いである。

今日では、親が共働きの為、昼間児童が学校から帰っても留守になる家が増えている。週に何回か帰校後の学童支援が行われているが、その時間や日数など十分満足できる状態のように思えない。地域のお寺と行政がタイアップして、本堂や境内を解放して自由に遊ばせて欲しい。



夏休み子供会館・お勤めの練習

子育てに不安や悩みを抱えている若いお母さんたちの相談・不登校やひきこもりで学校へ行けない子供たちへ、学校以外の学びの場としての居場所の提供、また、ひとり暮らしのお年寄りの人たちへ寄り合い、語り合える場所、即ち、世代間交流の場として有効に利用できるのではないでしょうか。

笑顔と笑い声が絶えないお寺ができることを期待したい。経済第一主義から、心の時代に変化をしなければならぬと、気づき始めた今こそ「真宗寺院」が率先して世間にその範を示したい。第十組・永覚寺門徒 磯貝 悟

別院行事のご案内
夏の御文 げのおかみ
7月15日(水) 午前10時 午後1時
法話 第14組 蓮成寺 青木 馨 師

門徒会研修会
8月24日(月) 午後2時
法話 「くらしのこめ」
高山教区 眞蓮寺 三島 多聞師

パネル展
8月24日(月) 25日(火)
中村久子氏パネル展

秋期彼岸会 しゅつぎひかんえ
9月22日(火) 午後1時
法話 第14組 安専寺 安藤 智彦師
9月23日(水) 午後1時
法話 第14組 専興寺 浅野眞理子師
9月24日(木) 午後1時
法話 第8組 宿禰寺 織田 慶雄師

晨朝法話 じんじょうほうわ (午前7時)
7月13日(日) 第10組 永覚寺 野々山洪美師
28日(火) 第10組 玄照寺 静 義孝師
8月13日(木) 第11組 常照寺 山下 正文師
28日(金) 第11組 唯信寺 大河内和也師
9月13日(日) 第12組 篤信寺 荻川 睦師
28日(月) 第12組 篤信寺 荻川 睦師

絵画・俳句募集!!
一、絵画(3才~小学生)
募集期間 5月1日~7月31日
二、俳句(中高校生一般)
募集期間 7月1日~9月30日
※ 絵画俳句ともに詳しい応募要領は、赤羽別院内の掲示所(壁にかかると)にてご覧いただけます。
電話(0563)7211300
お問い合わせ下さい。

■■■カルチャークオースク■■■

石川台嶺師ゆかりの

蓮泉寺と殉教記念碑を訪ねて

明治四年(一八七二)麻仏毀釈に端を発しておきた大浜騒動で受難された方々の追悼法要が、毎年六月五日に近郷各地で営まれている。この騒動の中心人物とされ、斬首刑に処せられた石川台嶺師ゆかりの安城市小川町の蓮泉寺や西尾市築町の殉教記念碑にお参りし、台嶺師を中心に青年備で組織された三河護法会の篤き護法精神を偲んでみたい。

この法要には、本山より御健役が御参修され、蓮泉寺に隣接して建立された護法有志の法名が記された墓前に於いて、岡崎教務所長並びに第十六組住職らによりお勤めがなされる。

墓の隣の石碑には、台嶺師が獄中より奥方にてあられた御手紙に認められた辞世「露の身ハここにきよにて きゆるとも 心ハをなじ 西のかのきし」が刻まれている。また、本堂には師の遺物が展示され、中でも「血染の白衣」は生々しく、騒動における護法精神を思う時見逃すことができない。



護法有志の墓



殉教記念碑

このお勤めの後、関係者は西尾市築町の「殉教記念碑」に移動し、碑前において地元門徒衆や世話方等と一緒に勤めが行われる。この地は旧西尾城内獄舎跡で、

そして、午後一時より幡豆郡一色町の赤羽別院お御堂において、御健役御出仕のもと多くの僧侶、門徒によって賑々しく殉教法要が厳修される。ここでは世話方や崇教区域寺院の坊守による御接待もあり、この地域における真宗門徒の信仰と殉教法要に対する篤い思いが感じられる。(浅野記)

ゴボちゃん HOUSEN



笑顔で語る妙慶さん

東本願寺・平成の大修復

焼失 真宗本願寺 東本願寺は、元治元年(一八六四)長州軍と幕府軍が戦った禁門の妾(蛤御門)の妾の戦火を受け、御影堂・阿弥陀堂(本堂とも)に焼失しました。再建 現在の両堂は、明治二十八年(一九九五)十数年の歳月をかけて再建された。かつては「都富土」と称された御影堂は、間口42間・奥行32間・高さ21間で、世界最大の木造建築として威容を誇っています。



阿弥陀堂(左)と御影堂

損傷 再建後百余年を経て、両堂は経時劣化による屋根瓦の損傷と、これに起因する雨水のしみ込み等により、木組構造材に折損や腐朽が発生しました。修復 第一期 宗祖親鸞聖人の本願念仏の教えとともにに相続されてきた根本道場を、聖人七百五十回御遠忌特別記念事業として取組む修復工事は、全国から寄せられた浄財熱志などの協力を得て、平成十六年に第一期工事として御影堂の修復に着手されました。十七万

法要厳修(こ)で一旦工事を中断し、平成二十三年の春に親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修されます。修復 第二期 平成二十四年から第二期工事として阿弥陀堂・御影堂門の修復にかかり、その全てが完了するのは同二十七年の予定です。着手から十二年もの永きにわたる正に「平成の大修復」であります。(石川記)

余枚もの瓦の葺き替え・木部補強・鋳金物の修復など耐震補強工事を併せて、約四年をかけて平成二十二年末に見事に完了しました。

教区公開講演会

川村妙慶師を招く

岡崎教区教化委員会が主催する公開講演会は、過四月十七日当別院において、遠くは静岡市からの聴講者を含め二百余名の参加のもと開催された。今回お迎えした講師・川村妙慶

師は、僧侶・アナウンサー・執筆・講演活動等で全国各地を駆け巡るカリスマ的存在のスーパースタリーであります。身振り手振りを交えて、師ならではの華を感じさせる軽快かつ軽妙な語りかけに、満席の会場のだれもが身じろぎもせず聞き入り、あつという間の二時間であった。帰路につく方々の満足感に満ち溢れた表情が印象に残る講演会であった。(石川記)

ブログを開設しました!

検索サイト(googleなど)から
三河ぶんか新聞→仏教→赤羽御坊日誌をご覧ください。
HPも準備中です。リンク集を作りますので、貴寺院の開設されているHP・ブログのURLをメールにてお送り下さい。
akabane_betuin@katch.ne.jp

赤羽御坊新聞ご懇志 (順不同・敬称略)

第10組	初岡 景右 石川 鴻英 金原 三芳 小堀 一芳	朝岡 景右 磯貝 昌一 田中 照熱 田中 幸実
第11組	藤江 俊一 三矢 利治 三矢 光伸	三矢 三矢 三矢 三矢 喜之 博正
第12組	杉崎 泰美 千鶴 神谷 齊藤 齊藤 保夫 牧 重男	神谷 神谷 齊藤 齊藤 重男 重男
第14組	同田らた子 坂尾 菊次	坂尾 菊次
お寺	永覚寺 源徳寺 殿西寺	

安寿寺ご命日のついで有志
貴重なお懇志をありがとうございました

編集室

編集委員を担当して十ヶ月が経ちました。今やつとチームとしての活動が始まったところ。現在の紙面は講演記録と仏事の基本的な情報を中心成しています。しかし、他にも赤羽地域文化センターの動きや、各寺々の抱えている問題とそれへの取り組みなど、載せなければならぬ重要なテーマが沢山あります。紙面は限られていますが、優先すべきか、またセンターの機関紙としてどうあるべきか模索している状態です。皆様の率直なご意見を頂きたいと存じます。

愛知の総合産地市場

開市 毎週火曜日 午前9時
毎週木曜日 午後1時

西尾植物取引市場

西尾植物株式会社
代表取締役 川上志鶴江
〒445-0057 愛知県西尾市野々宮町東18
TEL 0563(56)8797
FAX 0563(56)8914
E-mail: ns2@nishishoku.co.jp

神社仏閣・墓石・石積・石加工
設計施工全般

杉新石材店

〒444-0324
愛知県西尾市寺津町南若王子45
北若王子
TEL・FAX (0563) 59-4105

さかしか 寿々家

座敷のご利用を

昼席承ります
(10名様より)

慶事、仏事、商談に
コース¥4,000(税別)より

愛知県西尾市会生町
☎(0563)57-2503